

Global Strategy Com Meeting #9

Date: 2015 November 24, Tuesday 10:15-12:10

Room: Gakkai Center Building, B1F Meeting Room, 2-4-16 Yayoi, Bunkyo-ku, Tokyo

Attendee:

Global Strategy Committee members: Toshiyuki Hibiya, Yukio Himiyama, Hiroe Miyake, Yasuhiro Murayama, Eiji Ohtani (Skype), Sho Sasaki (Skype), Kanako Seki, Kiyoshi Suyehiro, Fumiko Tajima (Skype), Yukihiro Takahashi
President: Toshitaka Tsuda (Skype)

Vice Presidents: Hodaka Kawahata, Masato Nakamura

JpGU Office: Yozo Hamano, Kayoko Shirai, Maiko Amano

Regrets:

Global Strategy Committee members: Gaku Kimura (Chair), Simon Wallis (Vice Chair), Masaki Fujimoto, Shigeko Haruyama, Teruyuki Kato, Kensei Kobayashi, Teruyuki Nakajima, Hisashi Nakamura, Shogo Tachibana, Ryuji Tada

Meeting summary: ACTION ITEMS

1. 2016年大会の若手参加者の旅費援助の審査協力について、顕彰委員会に諮り、11/26の理事会に報告する（中村・川幡）
2. 2016年大会の若手参加者の旅費援助の選定基準について、ダイバーシティ委員会の意見を、12月中旬までにいただく（高橋）
3. 公益社団法人であることから JpGU 会員であることを旅費補助の条件にはしないが、学生であるかどうかの確認は必要である、（浜野・事務局）
4. 2016～2017年大会の JpGU-AGU Meeting Agreement の内容を確認する（末広TF・全員）
5. 2017年大会に必要な、AGU側のプログラム委員の代表5名の2回分の招聘旅費を確保する（事務局）
6. AGU側からの依頼により、2016年4月10～12日に香港で開催される ASAE's 2016 Great Ideas in Association Management Conference, Asia Pacific の JpGU側の派遣旅費を確保する（事務局）
7. JpGU Meeting をバイリンガル化した際の事務局負担を引き続き検討する（全員）
8. AOGS との関係を含む今後の国際対応プランを引き続き検討する（全員）
9. AGU の顕彰に関する対応を検討する（ウォリス・他）
10. 次回のグローバル戦略委員会の日程を検討する（白井）

木村委員長が不在のため、末広委員が議長に推薦された。

議題 0. 前回議事録確認

前回議事録が了承された。末広議長より、2016年大会におけるAGUとのJoint Session数が、10~15件程度の当初の想定を上回り、49件に達した旨の報告があった。また、AGUとのJoint Sessionは、口頭2コマを配分する優遇措置が取られた旨、報告があった。若手参加者の旅費援助は、今後寄付等を含めた展開が期待される。

川幡副会長より、JpGUとAGU/EGU/AOGSとのMOUに関して、大会投稿時における不平等性について要確認との指摘があった。

議題 1. 第3回理事会 (9/16) 報告

末広委員より、JpGU 2016における若手参加者の旅費援助を、JpGUの顕彰の一環として行うため、顕彰委員会に審査協力を依頼したい旨が述べられた。中村副会長が、11/26の理事会報告に間に合うよう、顕彰委員会に諮ることとなった。また、11/26の理事会報告において、グローバル戦略委員会の報告を、川幡副会長と中村副会長が行うこととなった (Action Item 1)。

議題 2. AGU との Joint Meeting について

1) JpGU Task Force for 2017 Meeting

末広TFより、Union Joint SessionのGreat Debateについて、コンビーナは西山 JpGU 2016年プログラム委員長とRousseau AGU 2015年プログラム委員長、モデレータは海洋研究開発機構の平朝彦氏となることが報告された。地球科学と社会をテーマに5名のパネリストが選出されている。

学生旅費援助は、学生であれば応募資格を有する方針とする。所属学会を記載する欄を設けるが、記載がない学生は、個別対応を行う。受賞者公表日はTFの、選定条件はダイバーシティ委員会の方針に準じる (Action Item 2)。公益社団法人であることから、JpGU会員であることを旅費補助の条件にはしないが、学生であるかどうかの確認は必要である (Action Item 3)。

大会システムの更新は、事務局の負担軽減の方向で順調に進んでいる。12/1から新システムのテストを開始する。AGUとの対応も順調である。

氷見山委員より、2016年大会におけるFuture Earthの国際セッションおよび日本語Union Sessionの開催方針について説明があった。

2) Meeting minutes at AGU Headquarters

浜野大会運営委員長より、2017年大会は100件の国際セッションを目指す方針が述べられた。総セッションが200件を超えても、対応可能な見込みである。2017年大会のJpGUとAGUのプログラム委員会は、face-to-faceの両プログラム委員長（入舩 JpGU-AGU 2017年プログラム委員長とLiu JpGU 2017年プログラム委員長）+JpGUと

AGU から 5 名ずつのプログラム委員の代表による実質的な会合を行う。2016 年 11 月と 2017 年 2 月の 2 回の会合を予定し、来日に必要な旅費は JpGU 側がサポートする (Action Item 5)。実りある会合とするため、事前にセクション毎に準備が必要となる。なお、AGU のプログラム委員会は 50-55 名から構成されている (各 section/focus group 毎に 2 名程度)。例年開催される 2 回のプログラム委員会に加えて、俯瞰的な会合の必要性も指摘されている。

末広 TF より、AGU Headquarters での会合の内容について報告があった。2015 年 12 月の AGU までに、JpGU-AGU Meeting Agreement の内容を確定させてサインする (Action Item 4)。支払に関しては、別途契約書を作成する。AGU 側から提供可能な情報は、姓名・所属・E-mail・status (student/regular/senior/etc)・居住国である。性別・国籍・年齢は、個別の情報提供ではなく、統計情報のみの提供となる。また、AGU より、2016 年 4 月 10~12 日に香港で開催される ASAE's 2016 Great Ideas in Association Management Conference, Asia Pacific (注 ASAE = American Society of Association Executives) に、JpGU と AOGS の代表を invite したい旨連絡があった。JpGU からの派遣について予算化が必要 (Action Item 6)。

AGU への支払い \$100K については、2017 年度の JpGU 予算に組み込むが、支払のタイミングは事務局に任せる。20%以上為替レートが変更した場合は、give and take で対応する。浜野大会運営委員長より、長期的プランとして、2016~2018 年大会の 3 年間をかけて、\$100K を超える収入を JpGU 側として得ることを目標とすることが述べられた。

3) AGU Fall Meeting 2015

JpGU がブース出展する。JSPS サンフランシスコ事務局の方も出席予定である。AGU 期間中に寄せられた質疑等は、JpGU ブースで対応する。

4) JpGU-AGU Joint Meeting 2017 における MST レーダーワークショップの開催

村山委員より、京大大学生存圏研究所の山本衛氏から標記ワークショップを 2017 年大会期間中に開催する可能性について打診があった。標記ワークショップの実施は、国際コミュニティとして確定しており、通常講演は 15 分程度であるなど、JpGU との親和性が高い。論点として、参加費をどうするか、ゴールドシュミットや 3 年に 1 度実施されているプラズマセッションとの関係が指摘された。また、津田会長より、JpGU-AGU Joint Meeting において標記ワークショップを実施する意義について、追加説明があった。

その後、浜野大会運営委員会から、国際化の方策として開催を奨励したい旨、発言があった。一方、大谷委員より、2017 年大会は、JpGU と AGU の共催なので、Joint Meeting としての合意が必要ではないかとの指摘があった。末広議長より、本件は、JpGU-AGU Joint Meeting 2017 の両プログラム委員長 (入船 JpGU-AGU 2017 年プログラム委員長と Liu JpGU 2017 年プログラム委員長) に endorse する方向性が示された。また、JpGU と

AGU の事務局同士が風通しの良い状態を保つ必要性について合意した。

5) その他

氷見山委員より、次期科学技術基本計画に **Future Earth** が明記される旨、紹介があった。大型研究や融合領域の扱いも重要視される。そのため、JpGU における **Future Earth** の位置づけや、2017 年大会において **Future Earth** を表に出すことが重要性について、見解が述べられた。一方、AGU 側の **Future Earth** に対する関心の高さが不明な点があるため、AGU 期間中に情報収集をお願いしたい旨、依頼があった。

議題 3. EGU への対応プラン

大谷委員より、EGU が選挙中のため、現時点でレスポンスはない旨、報告があった。

議題 4. AOGS への対応プラン

白井氏より、前向きに進んでいる旨、報告があった。

議題 5. American Geosciences Institute (AGI) とのコラボレーション

AGI は、学協会としての活動を実施しており、個人会員や学術出版物はない。しかし、各学協会の理念を上手にとらえ、子供向けから政策決定者向けの資料を作成するなど、幅広い科学的活動を実施し、多額の寄付も得ている。11/20 に JpGU 事務局において AGI と JpGU の会合が行われ、**Earth Science Week** の啓蒙活動の日本版の実施の可能性について検討することとなった（地学オリンピックと合わせる案もあるが時期は未定）。詳細は、教育検討委員会が持ち帰り検討することとなった。

氷見山委員より、日本科学未来館と JpGU との協力可能性について質問があった。高橋委員より、日本科学未来館との現状の協力体制について回答があった。川幡副会長より、日本科学未来館における JpGU のブース展示の可能性について示唆があった。国立科学博物館も含め、どのような設定が必要か、引き続き議論していくこととなった。

議題 6. Global Strategy and JpGU Meeting 2018

木村委員長が不在のため、次回以降に検討することとなった (**Action Item 8**)。

大谷委員より、2017 年の **Joint Meeting** 以降の方針（開催場所や開催国、運営方針）の具体的なイメージを検討する必要性について、問題提起があった。末広議長より、現在は白紙状態であるとの回答があった。また、仮に海外で展開する場合は、現地の **society** との主体的なかかわりが必要ではないかとの指摘がなされた。村山委員より海外で実施する場合の実務面の困難さ、関委員より学生の参加の困難さの指摘があった。

AGU の顕彰に関する対応は、AGU の CIP 委員でもあるウォリス副委員長が不在のため、次

回以降に検討することとなった (Action Item 9).

次回委員会の日時は未定 (Action Item 10).